

# 地域福祉活動計画 専門職向けアンケート 調査結果

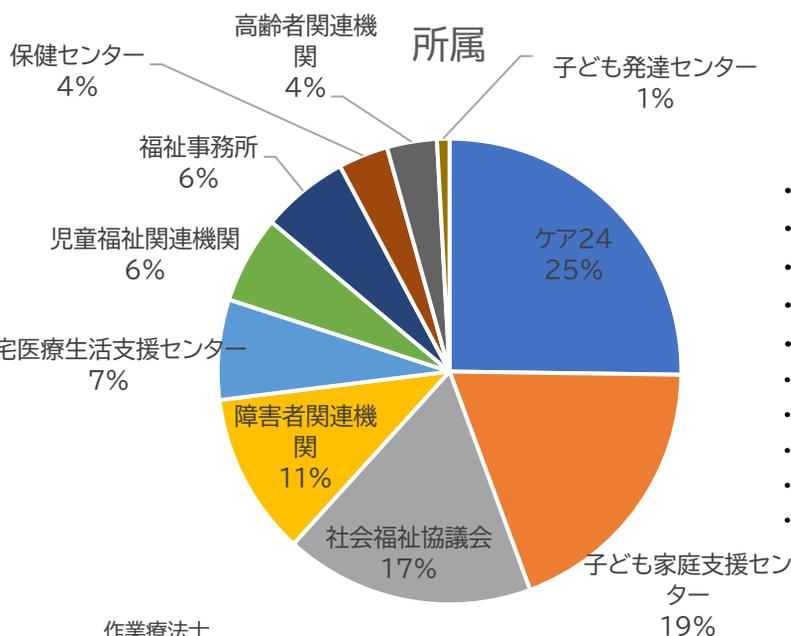
【目的】杉並区の地域課題や制度・サービスの狭間のニーズを把握するため、日頃から地域福祉に関わっている専門職や地域住民の方々へ、アンケート調査を実施する。アンケート集計結果から課題解決策について考察し地域福祉活動計画に反映する。

【対象】行政機関(相談機関)及び区内福祉関係機関・団体等

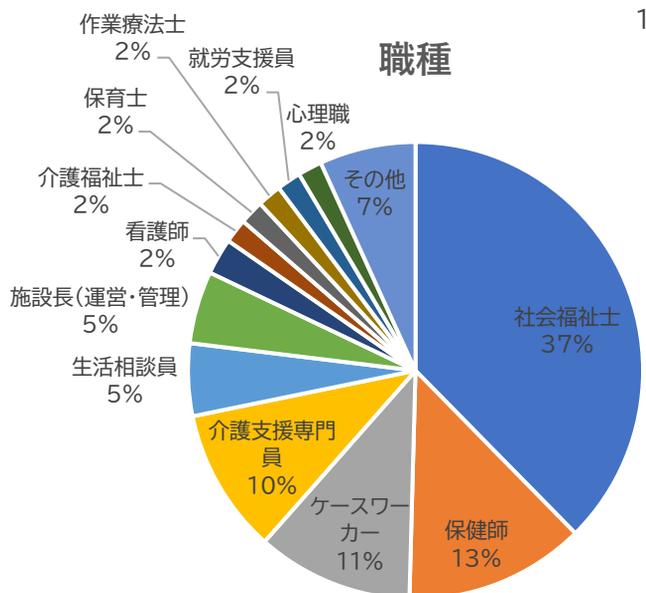
【調査方法】回答フォームをメール送付

【調査期間】令和5年6月1日～令和5年6月30日

【回答件数】それぞれの団体から115件の回答を得た。



- ・ケア24 29件(25.2%)
- ・子ども家庭支援センター 22件(19.1%)
- ・社会福祉協議会 20件(17.4%)
- ・障害者関連機関 13件(11.3%)
- ・在宅医療生活支援センター 8件(7%)
- ・児童福祉関連機関 7件(6.1%)
- ・福祉事務所 7件(6.1%)
- ・保健センター 4件(3.5%)
- ・高齢者福祉関連機関 4件(3.5%)
- ・子ども発達センター 1件(0.9%)

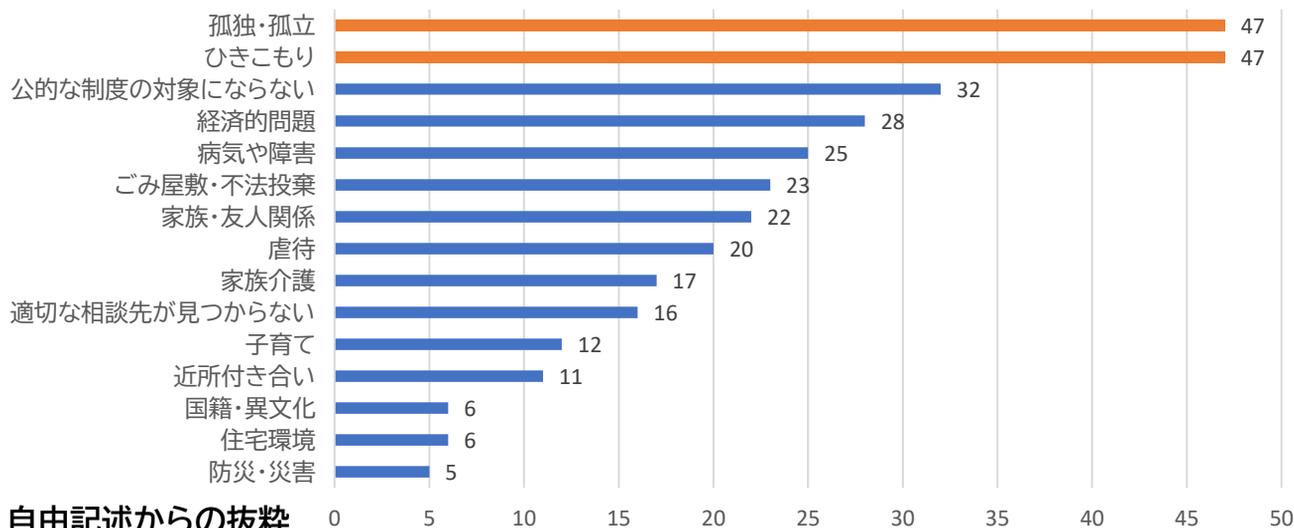


- ・社会福祉士 44件(38.3%)
- ・保健師 15件(13%)
- ・ケースワーカー 13件(11.3%)
- ・介護支援専門員 12件(10.4%)
- ・生活相談員 6件(5.2%)
- ・施設長(運営・管理者) 6件(5.2%)
- ・看護師 3件(2.6%)
- ・介護福祉士 2件(1.7%)
- ・保育士 2件(1.7%)
- ・作業療法士 2件(1.7%)
- ・就労支援員 2件(1.7%)
- ・心理職 2件(1.7%)

精神保健福祉士/地域家庭支援専門相談員 / 臨床心理士・公認心理師/生活支援コーディネーター/栄養士/社会福祉協議会事務/生活支援員/児童指導員 各1件(0.9%)

回答が多かった所属割合は、ケア24が29件(25.2%)、子ども家庭支援センター22件(19.1%)、障害者関連機関13件(11.3%)となった。職種については社会福祉士44件(38.3%)、保健師15件(13%)、ケースワーカー 13(11.3%)が多かった。

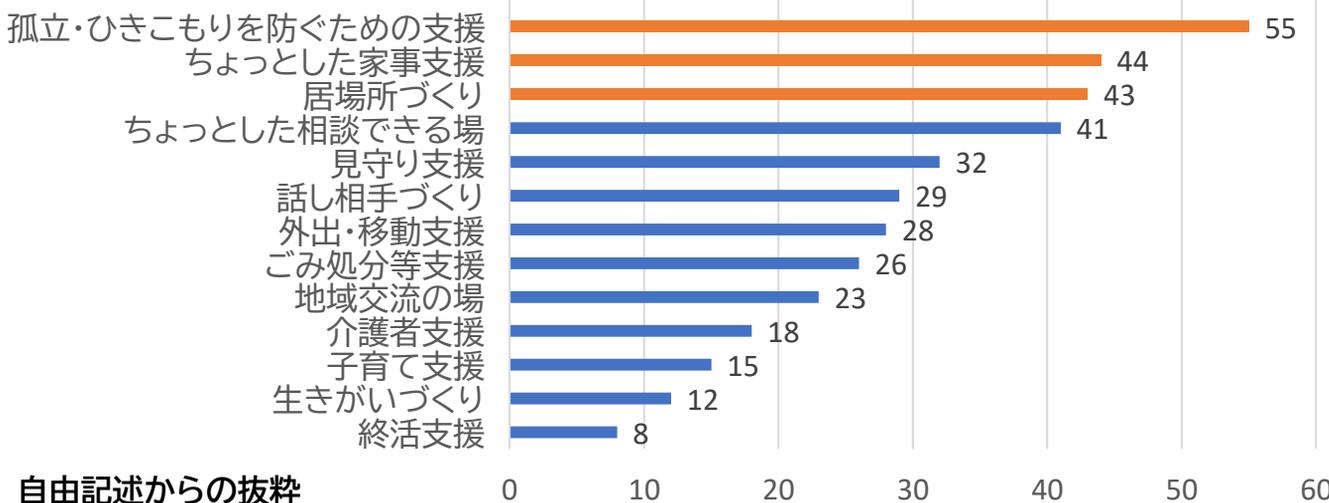
問1 日頃の業務から感じる、今の社会資源では対応できないが支援等が必要と思われる、地域住民が抱えている困りごとを教えてください。



自由記述からの抜粋

「孤独・孤立」について  
 ・本人は気づいていない、望んでいない、という状態でも、客観的に見ると孤立や孤独が原因で生活に支障が出ている人がたくさんいる。  
 ・高齢者と同居されている引きこもりがちな、80-50の50の方の孤独・孤立。  
 「ひきこもり」について  
 ・公的な制度には当てはまらないが、何かしらの支援が必要なご家庭について、誰がどうかかわっていくのか難しい。  
 ・ひきこもりの方に対して、家族からの相談から支援を試みたが、訪問を重ねても全く会うことはできず、支援の難しさを感じた。  
 ・社会参加に向けての居場所、本人と一緒に行動してくれる方がいると良い。  
 各専門職が関わりながらも、対象者をつながることの難しさや必要な支援につながりづらい現状がわかる。また専門職同士の連携が促されるような、ネットワークを必要としている。

問2 解決できずに困っている課題に対して“こんな取り組みやサービスがあったら良い”と思う、アイデア等ありましたら、お聞かせください。



自由記述からの抜粋

「孤立・ひきこもりを防ぐための支援」  
 ・家族から孤立している場合や孤独の方の求めに応えていくには、いつも開かれている場所があればと思います。  
 ・農業と福祉が連携し、地域のイベントを行ったり、引きこもりがちな方々が農業を通して交流を持ち、達成感を得ることのできる仕組みがあるとよい。  
 「ちょっとした家事支援」  
 ・公的サービスにはなじまない家事支援が必要な人は多い。  
 「居場所づくり」  
 ・誰もが気軽に集まれる居場所、交流の場が生活圏域にあるとよい。  
 ・引きこもりの方が安心して過ごせる場があるとよい。

問3 現在、他の機関や団体と連携が取れていると感じていますか？現在の連携度および今後の連携の必要度について教えてください。

専門職に他機関や団体との「現在の連携度」と「今後の連携の必要性」を4つの選択肢から回答してもらい、チェックした選択肢を点数化し、回答者数を足しあげ平均値を算出しました。下記の表は、回答数の多かった上位4機関を抜粋し、「現在と今後の連携度の差が大きい」順に並べています。この設問では、機関・団体同士の連携の傾向を捉えることを想定していましたが、調査結果に必要な回答母数の違い、各機関の活動内容の違いによる回答の偏り等の理由から、一定の傾向を捉えることが困難となり、分析に至ることができませんでした。

その上で、上位4機関の専門職が必要としている連携の傾向について、下記のとおり示しました。

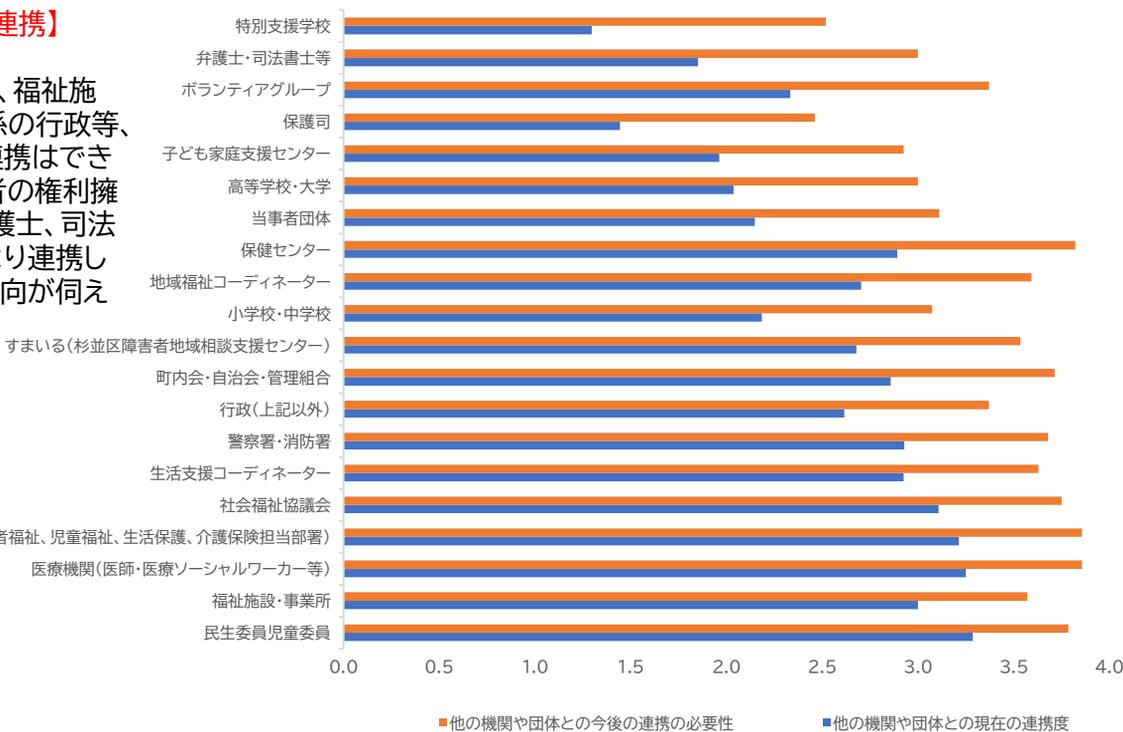
オレンジ■:他の機関や団体との今後の連携の必要性

ブルー■:他の機関や団体との現在の連携度

ケア24(29件25.2%)

【法律関係者等との連携】

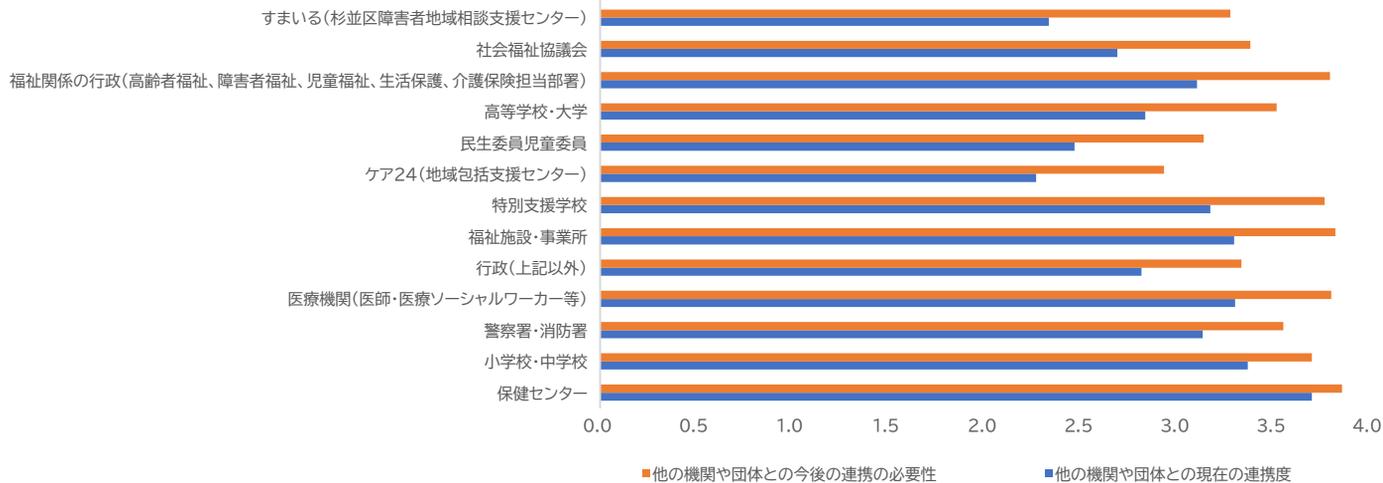
民生委員児童委員、福祉施設・事業所、福祉関係の行政等、公共的な機関との連携はできている。また、高齢者の権利擁護という点から、弁護士、司法書士等の専門職とより連携していきたいという意向が伺える。



【地域資源との連携】

保健センター、教育機関、警察署等とは日常的な連携ができています。児童領域以外での地域資源(ボランティア等)とのつながりを求めている傾向がうかがえる。

子ども家庭支援センター(22件19.1%)

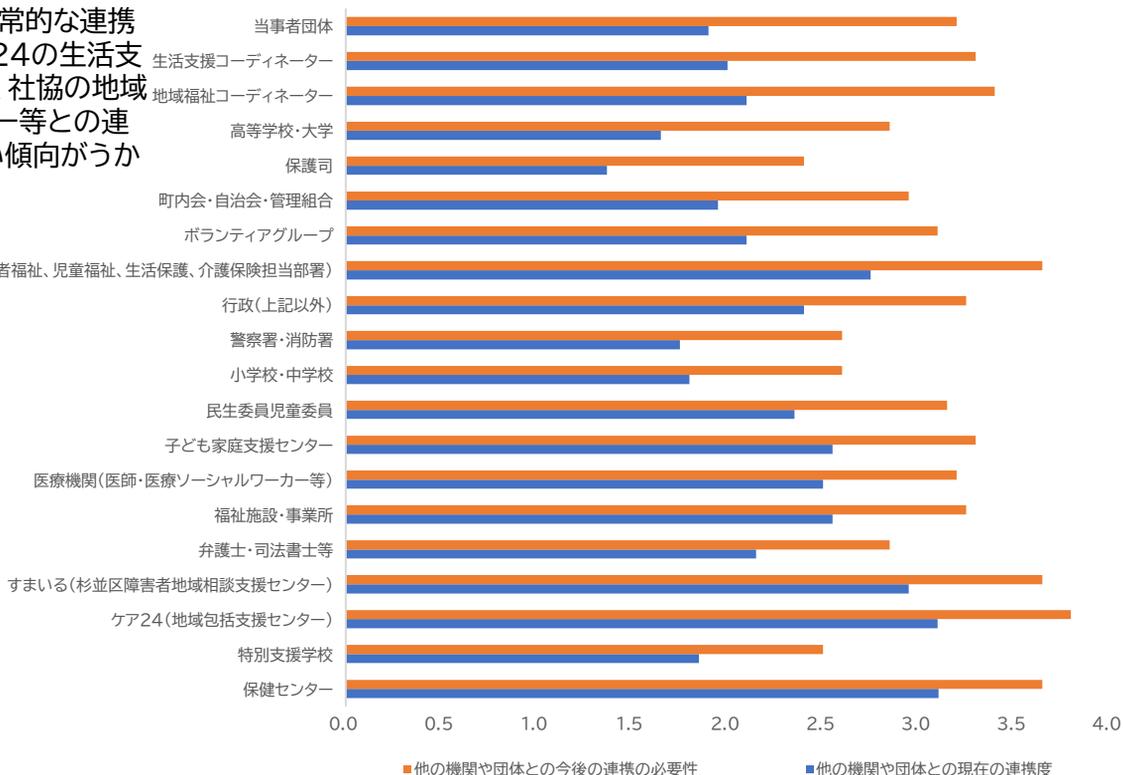


【コーディネーター等との連携】

社会福祉協議会(20件17.4%)

行政機関等とは日常的な連携はできている。ケア24の生活支援コーディネーター、社協の地域福祉コーディネーター等との連携を深めていきたい傾向がうかがえる。

福祉関係の行政(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護、介護保険担当部署)

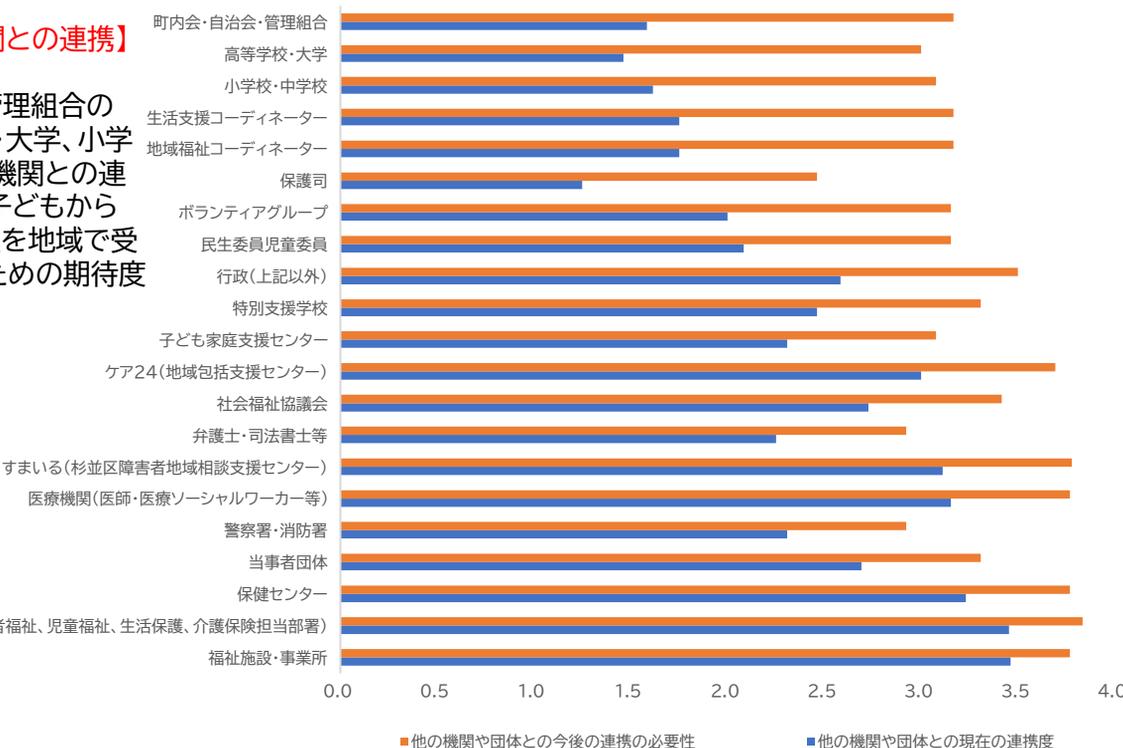


障害福祉関連(13件11.3%)

【地域組織、教育機関との連携】

町内会・自治会・管理組合の地域組織、高等学校・大学、小学校・中学校等の教育機関との連携を深めることで、子どもから大人までの成長過程を地域で受けとめ、支えていくための期待度がうかがえる。

福祉関係の行政(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護、介護保険担当部署)



# 地域福祉活動計画

## 地域をよくするためのアンケート

### 調査結果

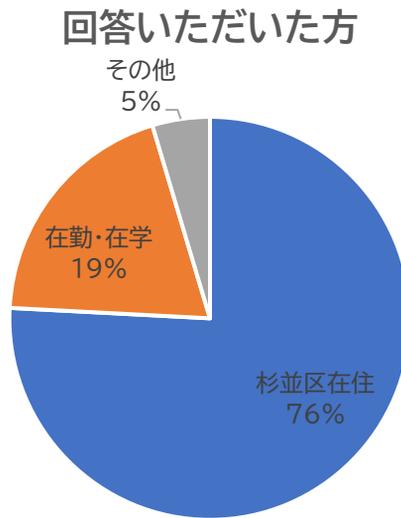
【目的】杉並区の地域課題や制度・サービスの狭間のニーズを把握するため、日頃から地域福祉に関わっている専門職や地域住民の方々へ、アンケート調査を実施する。アンケート集計結果から課題解決策について考察し地域福祉活動計画に反映する。

【対象】地域団体・住民等

【調査方法】社協ホームページ・Facebook、ボランティアセンターホームページ、ヒアリングを通じて、回答フォームを配布

【調査期間】令和5年6月1日～令和5年6月30日

【回答件数】それぞれの団体から302件の回答を得た。



ご所属(関わっている活動などあればご記入ください)

【障害児者関係】

障害児者当事者団体/障害児者支援事業所/障害児者支援団体

【高齢者関係】

ケア24(地域包括支援センター)高齢者支援事業所/高齢者支援団体/見守り支援活動者(あんしん協力員)

【児童関係】

子ども食堂/子育てサロン

児童支援団体・児童館ボランティア

【ボランティア・地域活動団体】

サロン・居場所/町内会自治会/地域活動団体

【教育関係】

PTA、CS、区内大学

【医療関係】

保健センター/クリニック/保健センター関係団体

【杉並社協事業関係】

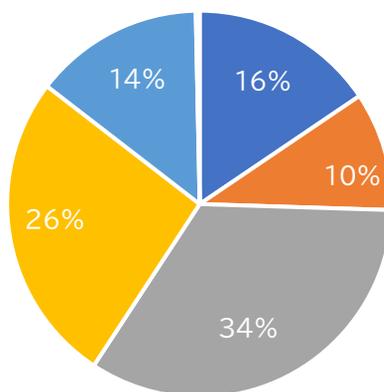
あんしんサポート支援員/ささえあいサービス協力会員

【その他・まちづくり】

民生委員児童委員/地域区民センター協議会/中間支援組織/まちづくり支援団体/NPO法人/幼稚園関係/生協/災害支援団体/区議会

当てはまる年代にチェックをしてください。

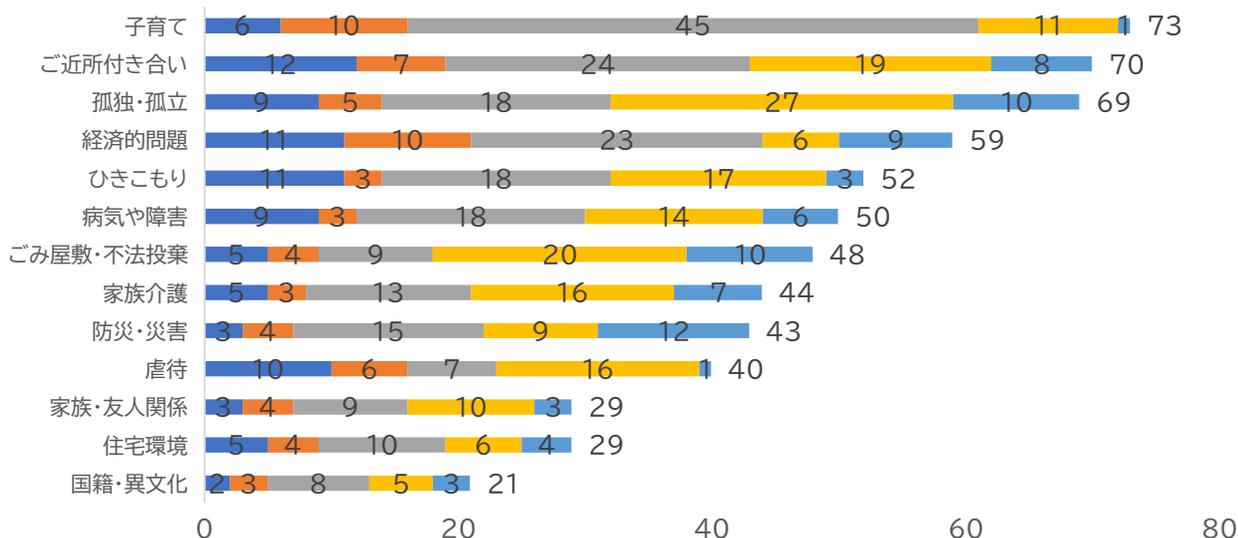
## 年代



■ 10代 ■ 20代 ■ 30・40代 ■ 50・60代 ■ 70・80代

問1 日頃の生活から制度やサービスでは対応できないと思われる地域(社会)の困りごとがあれば教えてください。

■ 10代 ■ 20代 ■ 30・40代 ■ 50・60代 ■ 70・80代 合計



## 自由記述からの抜粋

「子育て」

・子どもたちの居場所が少なく心配

「ご近所付き合い」

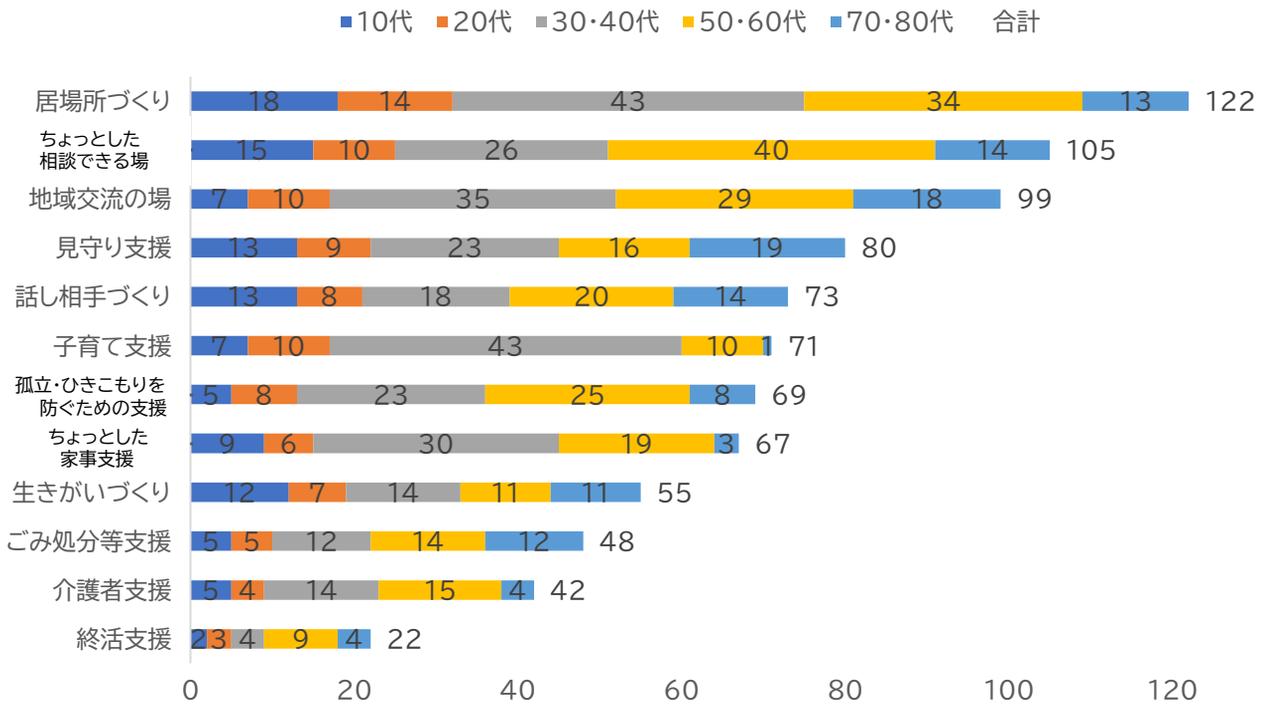
・地域の中でお互いを知る場が無い。縦割りに様々なサービスが存在するが、家族全体での支援を考える場が無い。

「孤独・孤立」

・ヤングケアラー問題は非常に深刻です。障害のある兄弟の介護を押し付けられて食堂に参加できない日があったり、登校できない日がある子もいます。

・子ども、障害者、高齢者、それぞれの制度の中で課題を検討する場(協議体等)が存在するが、それを地域の場で検討する仕組みが無い。

問2 解決できない困りごとに対して“こんな取組みがあったら良い”と思う、アイデア等ありましたら、お聞かせください。



## 自由記述からの抜粋

### 「居場所づくり」「ちょっとした相談できる場」「地域交流の場」

- ・地域の中で安心して困りごと含めて話ができる場が必要。そして、そこから生まれたアイデアが実現していける仕組みづくり。
- ・高IQ児童、生徒、とその保護者のための学びの場や居場所。
- ・障害をもつ子どものケア支援。
- ・スーパーやコンビニなどに相談窓口を案内。
- ・地域ごとの相談窓口、お知らせがあると助かる。
- ・ひきこもり、関係を作って外に出る習慣をつける過程でお手伝い、抱え込まなくて良いこと、地域で協力するという姿勢。
- ・障害があってもなくても子どもも大人も老人も国籍が異なる人も同じ空間(公園や施設など)を譲り合って使えるような仕組み。
- ・カフェやレストラン、無料の居場所利用ができる仕組み、ケア24の方や、地域の保健師、助産師、保育士、助け合い伝言板があって、“こんなこと、お手伝いできます”“こんなこと、お願いしたい。相談したい”等のマッチング。
- ・勉強ができたり、子育て世代であれば外出中にひと休憩、談笑したりお茶したりなどができる場所。